重要文化財公開

首里城京の内跡出土品展

陶磁の美

—首里城京の内にもたらされた秀逸品—

平成17年１月18日（火）～１月23日（日）

沖縄県立埋蔵文化財センター

目　次

ごあいさつ
陶磁の美―首里城京の内にもたらされた秀逸品―

○首里城「京の内」跡とは・・・・・・ 2

○重要文化財指定基準・・・・・・・・ 3

○重要文化財指定の理由・・・・・・・ 4

○指定資料一覧・・・・・・・・・・・ 5

○年表資料・・・・・・・・・・・・・ 6

○展示品紹介・・・・・・・・・・・・ 8

○用語解説・・・・・・・・・・・・・19

紅釉水注

凡　例

1. 本書は、2005（平成17）年1月18日から1月23日まで開催する「重要文化財公開『首里城京の内跡出土品展』」の展示を補完するものとして編集したものである。
2. 本企画展は、沖縄県立埋蔵文化財センターが主催している。
3. 本書に掲載されている写真の無断使用は固く禁する。

ごあいさつ

陶　磁　の　美

―首里城京の内にもたらされた秀逸品―

沖縄における焼き物（陶器）の始まりは、17世紀初頭に薩摩（島津）が朝鮮の陶工を沖縄に連れてきて湧田で焼かせたのが最初といわれています。

沖縄ではそれ以前は素焼きの土器のみを作製していました。陶磁器類はすべて搬入品で、特に中国産の陶磁器が大量に持ち込まれています。他にはタイやベトナムなどの東南アジアや韓国・日本からの搬入品もあります。また、沖縄には12世紀頃から陶磁器が入ってきますが、14～15世紀にそのピークを迎えます。その頃はグスク遺跡のみならず、集落遺跡からも陶磁器が多く出土し、陶磁器をめぐる交易が盛んに行われていたことがうかがえます。このようなことから、この時代を「大交易時代」とも称しています。

今回、展示公開をしているものは、平成12年に国指定の重要文化財となった首里城跡京の内跡から出土した陶磁器のなかでも秀逸品をとりあげました。

当時の製作技術の高さや陶磁の美を堪能していただくとともに、首里城内の様式美を想い描いてください。また、これらの展示品をとおして沖縄の歴史・文化に理解や関心を深めていただきたいと思います。

平成17年１月18日

沖縄県立埋蔵文化財センター
所　長　　安里　嗣淳

首里城「京の内」跡とは

首里城京の内跡は、正殿（せいでん）、南殿（なんでん）、北殿（ほくでん）、奉神門（ほうしんもん）など政事（政治的）の建物が集中する区画の南西地区に位置します。

「京の内」の「京」は、“霊力（れいりょく）”と同義語の意味があり、「霊力のある聖域」という意味の固有名詞と考えられています。いくつかの絵図や文献などから、「京の内」は沖縄の開闢二神降臨（かいびゃくにしんこうりん）の御嶽（うたき）（拝所）となっています。「首里森御嶽（しゅりむい）」と「真玉森御嶽（まだまむい）」の二つの御嶽以外に「京の内之三御嶽」と称された三つの御嶽が存在したようです。

京の内域の面積は、今のところ約5,000㎡と考えられています。1994年から1997年にかけて沖縄県教育委員会が実施した復元整備事業に伴う発掘調査によって、京の内南西の地点から、火熱を受けた状況で中国産陶磁器をはじめとする陶磁器類などが一括して発見されたため、倉庫跡（3m×4m）と考えられるようになりました。

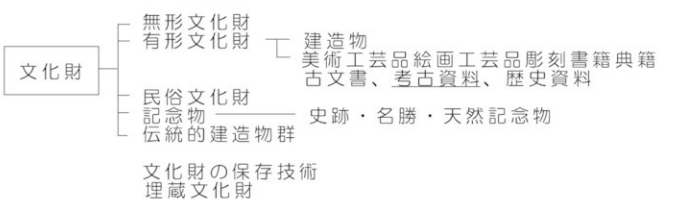
出土した陶磁器の年代からみて、倉庫が焼け落ちたのは15世紀の中頃と考えられています。

京の内跡全景

重要文化財指定基準

考古資料の部

一　土器、石器、木器、骨角牙器、玉その他縄文時代及びそれ以前の遺物で学術的価値の特に高いもの
二　銅鐸、銅剣、銅矛その他弥生時代の遺物で学術的価値の特に高いもの
三　古墳の出土品その他古墳時代の遺物で学術的価値の特に高いもの
四　宮殿、官衙・寺院跡、墓、経塚等の出土品その他飛鳥・奈良時代以後の遺物で学術的価値の特に高いもの
五　渡来品で我が国の歴史上意義が深く、かつ、学術的価値の特に高いもの



建造物、絵画、工芸品、彫刻、書籍、典籍、古文書、考古資料、歴史資料などの有形の文化的所産で、我が国にとって歴史上、芸術上、学術上価値の高いものを総称して有形文化財と呼んでいます。このうち、建造物以外のものを総称して「美術工芸品」と呼んでいます。
国は有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定し、さらに世界文化の見地から特に価値の高いものを国宝に指定して保護しています。

＊首里城「京の内跡」出土の陶磁器等は、有形文化財のうち重要なものとして、重要文化財の指定答申を受けたことになります。

重要文化財指定の理由

那覇市首里当蔵に所在する首里城内郭の南西部にあたる、京の内跡の建物跡から出土した陶磁器の一括である。

「京の内」は霊力のある聖域という意味であり、なかに存在した首里森御嶽は琉球王国の最高神女である聞得大君が神を迎えて、歴代の琉球国王に託宣を下した拝所である。

この京の内跡の発掘調査は国営沖縄記念公園首里城地区整備事業の一環として、平成６～７年度に実施され、約2,000㎡が調査された。その結果、この建物は天順３（1459）年に消失したことが判明した。

出土した陶磁器は、中国の青磁、白磁、明代の染付を中心に、元代の染付、色絵、褐釉陶・磁器、瑠璃釉、紅釉など、タイ産の褐釉陶器、ベトナム陶器、日本の備前陶器等で構成されている。これらは概ね14世紀中頃から15世紀中葉のものである。なかでも紅釉水注は、北京の故宮博物院に２点と景徳鎮窯跡出土の破片１点が確認されているのみである。また、元染付の合子は遺存度する部分は少ないが、極めて貴重な出土例である。

また、中国産の陶磁器を中心に、タイ、ベトナム、日本などアジアの主要な陶磁器の生産地から交易によって集められたものが出土している。

琉球王国は首里城正殿前に吊られていた「万国津梁の鐘」の銘文に「船舶を諸国と結ぶ小橋とすることによって異国の宝物類が国中に充満する」（訳文の趣旨）とあるように、中継貿易で栄えた琉球王国の繁栄ぶりを如実に示す貴重な一括資料である。

官報告示：平成12年６月27日付け　文部省告示第120号

重要文化財　首里城京の内跡出土陶磁器指定一覧

首里城京の内跡出土陶磁器	５１８点
附（つけたり）一　金属製品	一括
一　ガラス小玉	一括

陶磁器内訳

青磁	碗	１０３	皿	１１７	盤	３２
	壺	２０	花	2	馬上杯	1
	水注	3	瓶	5	香炉	3
	水滴	1	花盆台	1	大鉢	1
白磁	碗	１４	皿	１１	杯	2
	水注	1	壺	1	瓶	4
元染付	馬上杯	1	合子	3		
明染付	碗	３２	皿	4	杯	3
	鉢	1	瓶	１４	壺	4
色絵	碗	2	皿	1		
紅釉	水注	1				
瑠璃釉	碗	1	瓶	1		
褐釉磁器	碗	1				
褐釉陶器	壺	３０	水注	1	鉢	1
	壺蓋	1	特殊蓋	1		
白釉陶器	壺	2	水注	1		
褐釉陶器	蓋	1				
褐釉陶器（タイ産）	壺	５５				
半練土器（タイ産）	蓋	１８	壺	4		
ベトナム陶器	瓶	1	水注	2		
備前	擂鉢	1	甕	3	壺	2
その他（沖縄産か）	蓋	5				
合　計		５１８点				

1500

第一尚氏　　第二尚氏

青磁雷文帯八角皿（中国）

青磁牡丹唐草文水注（中国）

青花牡丹唐草文梅瓶（中国）

青磁双耳唐草文瓶（中国）

青磁馬上杯（中国）

青花花唐草文面取瓶（ベトナム）

青磁口折印花双魚文皿（中国）

備前焼壺（日本）

青花松梅文双耳瓶（中国）

褐釉陶器四耳壺（タイ）

青磁雷文帯皿碗中国）

一四一〇　尚思紹、シャムに使を遣わす
一四二一　パレンバン（インドネシア）との交渉はじまる
一四二七　竜潭を掘り安国山を築く
一四二九　尚巴志、三山統一

一四五三　志魯・布里の乱が起こり、首里城炎上
－五彩の手法が中国・民窯で増えてくる－
一四五七　万国津梁の鐘鋳造
一四五九　首里城倉庫が炎上
一四六三　マラッカへ使者を派遣
一四七〇　金丸（尚円）即位
〈第二尚氏王統始まる〉
一四七七　首里城歓会門、久慶門の創建
一四九〇　バタニ（タイ）と始めて交易
－この頃から、沖縄に入ってくる陶磁器が減少し始める－

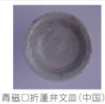
一五〇一　玉陵を築く
一五〇八　首里城北殿の創建
一五二九　首里城守礼門の創建
一五七〇　南方貿易の記録途絶える

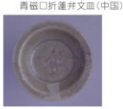
室町時代

1400　1300　1200

中国	元	南宋
琉球	察度王統	英祖王統	舜天王統

京の内の遺物


青磁口折蓮弁文皿（中国）


青磁口折蓮弁文皿（中国）

青磁牡丹唐草文花瓶（中国）

青花牡丹唐草文壺（中国）

青磁牡丹唐草文盤（中国）

青磁吉祥字文壺（中国）

青磁蓮弁文壺（中国）

五彩菊花文碗（中国）

青花八宝文大合子（中国）

紅釉水注（中国）

青花龍文高足杯（中国）

中国・沖縄の主な流れ

六〇七　隋の煬帝、朱寛を琉球に派遣
―南宋から元にかけて陶磁器の輸出がめざましくなる―
―中国江西省・景徳鎮の始頭―
―この頃、景徳鎮で青花（染付）磁器が完成する―
―この頃、景徳鎮で五彩色絵が創作される―

一三五〇　察度、浦添按司から中山王となり首里へ―
一三六八　明が興る
一三七二　中山王察度、はじめて明に入貢
一三八〇　山南王承察度、明に進貢
一三八三　山北王帕尼芝、明に進貢
一三八五　明の太祖、中山・南山両王に海船贈与
一三八九　察度、朝鮮（高麗）と通好する
一三九二　閩人三六姓、渡来と伝わる

一四〇四　冊封使、はじめて来琉
シャム（タイ）船渡来し交易
一四〇六　尚巴志、武寧王を討ち父・思紹を王にたてる
〈察度王統滅亡、第一尚氏興る〉
一四一六　尚巴志、三北王攀安知を討つ

日本	鎌倉時代	南北朝時代

展示品紹介

こう ゆ すいちゅう
紅釉水注
中国産　14世紀（元末期）

せい じ ぼ たん からくさもんすいちゅう
青磁牡丹唐草文水注
中国産　15世紀前期（明初期）

せいじ ぼたんからくさもん かびん
青磁牡丹唐草文花瓶
中国産　15世紀前期（明初期）

せいじ そうじびん
青磁双耳瓶
中国産　15世紀（明初期）

せいじ ぎょくこしゅんびん
青磁玉壺春瓶
中国産　15世紀（明初期）

せいじきっしょうじもんつぼ　せいこうびしゅ
青磁吉祥字文壺「清香美酒」
中国産　15世紀前期（明初期）

せいじれんべんもんつぼ
青磁連弁文壺
中国産　15世紀前期（明初期）

せいかはっぽうもんおおごうす
青花八宝文大合子
中国産　14世紀（元末期）

せいかぼたんからくさもんつぼ
青花牡丹唐草文壺
中国産　14世紀（元末期）

せいかぼたんからくさもんめいびん
青花牡丹唐草文梅瓶
中国産　15世紀前期（明初期）

せいかまつうめじゅもんそうじかびん
青花松梅樹文双耳花瓶
中国産　15世紀前期（明初期）

白磁玉壺春瓶（はくじぎょくこしゅんぴん）
中国産　15世紀（明初期）

白磁壺（はくじつぼ）
中国産　15世紀（明初期）

白磁内湾口縁碗（はくじないわんこうえんわん）
中国産　15世紀（明初期）

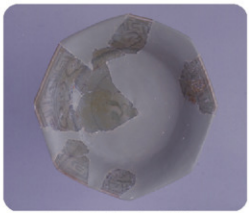
白磁碗（小振）（はくじわん　こぶり）
中国産　15世紀（明初期）

せいかりゅうもんこうそくはい
青花龍文高足杯
中国産　14世紀後期（明初期）

せいじばじょうはい
青磁馬上杯
中国産　15世紀（明初期）

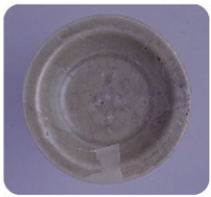
ごさいきくかもんわん
五彩菊花文碗
中国産　14世紀後期（明初期）

せいじらいもんたいわん
青磁雷文帯碗
中国産　15世紀（明初期）

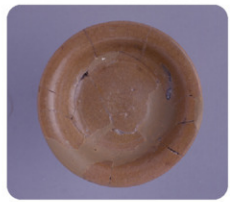


せいじらいもんたいはっかくさら
青磁雷文帯八角皿
中国産　15世紀（明初期）

せいじくちおれいんかそうぎょもんさら
青磁口折印花双魚文皿
中国産　15世紀（明初期）



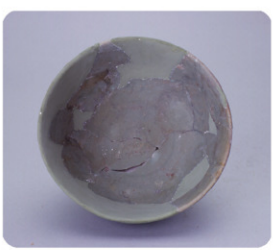
せいじくちおれれんぺんもんさら
青磁口折蓮弁文皿
中国産　15世紀（明初期）



せいじくちおれれんぺんもんさら
青磁口折蓮弁文皿
中国産　15世紀（明初期）

せいじらましきれんべんもんわん
青磁ラマ式蓮弁文碗
中国産　15世紀（明初期）

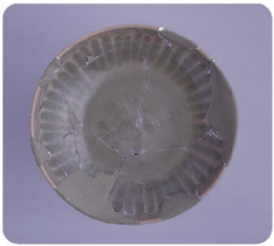
せいじらましきれんべんもんわん
青磁ラマ式蓮弁文碗
中国産　15世紀（明初期）



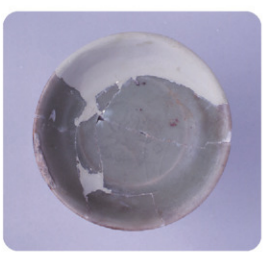
せいじらいもんたいわん
青磁雷文帯碗
中国産　15世紀（明初期）

せいじらいもんたいわん
青磁雷文帯碗
中国産　15世紀（明初期）

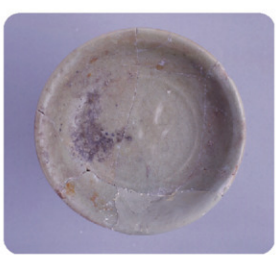
せいじれんべんもんさら
青磁蓮弁文皿
中国産　15世紀（明初期）



せいじれんべんもんさら
青磁蓮弁文皿
中国産　15世紀（明初期）



せいじたまぶちこうえんさら
青磁玉縁口縁皿
中国産　15世紀（明初期）



せいじたまぶちこうえんさら
青磁玉縁口縁皿
中国産　15世紀（明初期）

せいかきりんもんわん
青花麒麟文碗
中国産　15世紀（明初期）

せいかぼたんからくさもん「ふく」じめいわん
青花牡丹唐草文「福」字銘碗
中国産　15世紀（明初期）

せいかきりんもんわん
青花麒麟文碗
中国産　15世紀（明初期）

せいかぼたんからくさもんわん
青花牡丹唐草文碗
中国産　15世紀（明初期）

かつゆとうきつぼ　おおがた
褐釉陶器壺（大型）
中国産　15世紀（明初期）

かつゆとうきつぼ　おおがた
褐釉陶器壺（大型）
中国産　15世紀（明初期）

かつゆ し じ こ（おおがた）
褐釉四耳壺（大型）
タイ産　15世紀

かつゆとうきつぼ　（こがた）
褐釉陶器壺（小型）
タイ産　15世紀

びぜんやきすりばち
備前焼擂鉢
日本産　15世紀

びぜんやきつぼ
備前焼壺
日本産　15世紀

用語解説

首里城（しゅりじょう）

県内最大のグスクで、伝承によると14世紀頃に察度が築城し、琉球処分（1879年）までの約500年間琉球王国の王宮として機能した。標高100～135mの琉球石灰岩の丘陵上に位置し、グスクの規模は、東西370m、南北213m、面積46,167㎡。首里城は、大きく外郭と内郭で構成され、外郭には正殿の軟会門や久慶門、継世門を開き、内郭には瑞泉門、美福門、淑順門、白銀門、右掖門などを設け、正殿、南殿、北殿などの木造瓦葺きの諸宮殿など政治の中枢的な施設を建立した。正殿跡の遺構確認調査（基壇は、第Ⅰ期から第Ⅴ期までが重複）で、第Ⅰ期基壇は14世紀代に位置づけられている。

京の内（きょうのうち）

「京の内」は、首里城内郭の南西側に位置し、場内で最も神聖な空間。京の内の語義として、「けお」は「セジ」（霊力）の同義語として考えられ、”神または神の霊力”の意味を持つ。また、民俗学では、神が降臨する大岩の頂上や岩島・小島を「京：きょう」と称している事例などから、京の内は、神が降臨する聖なる場所と考えられる。首里城発祥の地ともいわれ、京の内には、首里森御嶽、真玉森御嶽の他に”京の内之三御嶽”と称された三つの御嶽があった。首里森御嶽を中心に、降臨神であるキミテズリの神を迎えて琉球王国の歴代国王の即位決定をはじめ国王への託宣など、王国の重要な祭祀が執り行われた。

御嶽（うたき）

村落の背後丘陵上にある拝所のことを御嶽と称し、村を霊護する祖霊神、島守神、ニライ・カナイなどと関係する聖域のこと。沖縄諸島では、同義語のムイ、ウガン、グスク、宮古ではスク、八重山諸島ではオン、ワースク、などと呼称してきた。首里城内の御嶽について『琉球王国由来記』（1713年）には、９御嶽が掲載されている。

青磁（せいじ）

磁器の一種。素地と釉薬のなかに含まれる鉄分が、還元焔焼成によって青く発色した磁器。中国の殷周・戦国時代の灰釉陶器がその源流とされ、後漢三国時代の浙江省方面で製作された古越磁が最初の原始的青磁であるとされる。日本や沖縄で出土する青磁の多くは、元から明代にかけて浙江省の龍泉窯及びその周辺で製作されたものである。

白磁（はくじ）

磁器の一種。白地の素地に透明釉をかけ、高温で焼成した磁器。白磁の起源についてはまだ明確にされてはないが、その起源は灰釉陶器や古越磁とされる。原始的な白磁が誕生したのは、６～７世紀の隋から初唐とされる。

沖縄で出土する白磁には、桶に定窯で製作されたものが見られるが、大部分は景徳鎮や中国南部の初窯及び徳化窯を産地とする。

磁器（じき）

素地は白色で、半透明で吸水性のない硬い焼き物をさす。陶石を原料とし、長石・石英などを配合して素地とする。素焼きしたあとに施釉し、1100～1500度の高温で焼成する。中国漢代末に始まったとされ、宋代に完成された。

陶器（とうき）

広義では磁器や炻器、または土器をも含めた焼き物全般の総称に使われる場合が多いが、狭義では素地が十分焼き締まらず吸水性があり、不透明な焼き物に限定して使う。

粘土を主原料として焼成し釉薬をかけるものと、かけずに焼き締めたものがある。磁器との境界は連続であるため明確な区別はない。磁器に近いものから硬質陶器、精陶器、粗陶器に分類する。また、原料により石灰質陶器、白雲石質陶器、長石質陶器などに分けられる。

青花〈染付〉（せいか）〈そめつけ〉

磁器の一種。いわゆる染付で、中国では一般的に青花（青花白磁・釉裏青）と称する。白色の素地にコバルトを含む呉須により絵付けを施したあとに、透明釉をかけて焼成する。還元焔焼成により白地に青い文様が浮かび上がる。中国でのコバルトの使用は唐時代に見られるが、釉下に絵付けする手法を用いたのは宋時代以降であり、元時代に完成する。青花の主な生産地として景徳鎮及び周辺諸窯があげられるが、明・清代には中国南部の各地に粗製の青花を生産する民窯が出現する。　また、周辺諸国では中国の影響をうけて、ベトナムでは安南染付が、朝鮮では李朝初期から染付の製作が開始される。

※コバルト…呉須などの天然の鉱物などに含まれる化合物で、青の材料として用いられる。
※呉須…コバルト化合物を含む天然の鉱物をさす。これを極細粉末にして水に溶かし、文様を描いたあとに上から透明釉をかけて焼き上げると藍色に発色する。

用語解説

紅釉（こうゆ・こうゆう）
　銅を発色剤に使用し高火度で焼成された磁器。銅紅釉、辰砂釉とも呼ばれる。還元焔焼成により鮮紅色に発色する。
　中国では宋代に始まったとされるが遺品は元代が初出である。景徳鎮窯が主に宮廷御器を焼造し、明・清代を通じて官窯の特技として製作された。

瑠璃釉（るりゆ・るりゆう）
　酸化コバルトを長石に混ぜた着色料を使用した色釉。高火度で焼成すると青く発色する。ほぼ全面に施釉した場合に称される。主に磁器に用いられることが多い。日本や沖縄で出土する瑠璃釉の多くは景徳鎮及び中国南部の徳化窯で生産されたものである。

褐釉（かつゆ・かつゆう）
　広義では鉄分を呈色剤として褐色になった陶器も含まれるが、陶磁史からみた場合には、中国漢代に栄えた酸化鉄を呈色剤とする低火度鉛釉のことをさし、その陶器を褐釉陶器と称する。沖縄で出土する褐釉陶器は、中国南部の広東省やタイで生産された12世紀以降の資料である。

合子（ごうす）
　蓋のある小型容器の総称。身と蓋を合わせるの意。盒（子）・合ともいう。多くは扁球形で、材質は陶磁器、漆器、金属器などで、用途には香合、化粧品入れ、薬味入れ、印肉入れなどがある。元来は蓋物の身の方を転用したもの。

瓶（びん・へい）
　壺・甕類のうち、その最小の物をさす。瓶は元来は水を汲んだり物を炊く道具であった。のちに、陶器の器で口が小さく、胴部の膨らんだ物を言うようになった。徳利や花生けとして使用された。

引用文献

『平成14年度　文化行政要覧』　沖縄県教育委員会　２００１年

『重要文化財指定記念　特別企画展　首里城京の内展　－ 貿易陶器からみた大交易時代 －』
沖縄県立埋蔵文化財センター　２００１年

重要文化財公開
首里城京の内跡出土品展

陶磁の美

―京の内にもたらされた秀逸品―

2005年1月18日

編集・発行

沖縄県立埋蔵文化財センター

沖縄県西原町字上原193-7
TEL　098-835-8751
FAX　098-835-8754
http://www.maizou-okinawa.gr.jp/

開所時間：午前９時～午後５時まで（入所は午後４時半まで）
休　　所：毎週月曜日、国民の祝日（子供の日、文化の日をのぞく）
　　年末年始（12月28日～１月４日）、慰霊の日（６月23日）
　　※祝日と月曜日が重なったときは、翌火曜日も休所、その他臨時休所あり
交　　通◇沖縄自動車道西原ICより　　車７分
　　◇市外線バスターミナル発97番　「琉大附属病院前」下車　徒歩１分

沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193-7
TEL 098-835-8752　FAX 098-835-8754
URL http://www.maizou-okinawa.gr.jp

埋文センター案内図